

前穂東面 8.16 カランクルンメーリングより転載

カランクルン 後藤皓二郎

後藤皓二郎です。先週の話になりますが8/5～6で前穂高東面、北壁～Aフェースに行ってきました。パートナーは柳川さんと彼女の村井さんと三人で行ってきました。早朝あかんだな到着。久しぶりのあかんだな。週末の天気は微妙な感じだが何とかなるだろう。二本目のバスに乗り6:00頃上高地出発。本日の行程は奥又白池まで行くのみなので、かなりゆっくりしたペースで歩く。いつもとは違うのんびりしたペースでは見える風景も違うよう。特に徳澤のキャンプ場の木漏れ日は印象的。新村橋を渡るとめっきり登山者が減り、静かな山を楽しめる。急登の松高ルンゼでは村井さんが少し遅れている。熱中症だろうか…それにしても暑い。

クライマーの別天地、憧れの奥又白池着。眼前には前穂四峰正面。たまらん景色。写真などを撮って、テントを設営してから取りつき偵察。久しぶりのガラガラのガレ場に苦勞。落石頻発。内心こんなところに村井さんを連れてきていいのだろうか…と思っていたが、村井さんは文句ひとつ言わず、きちんとペースを乱さずについてくる。夏に穂高に何度か来るので歩く練習をけっこうしていた…なかなかのタフさだと思う。はじめての穂高がこんな所とは…。

奥又白谷の雪渓はかなり多いようだ。きちんと取り付けるのだろうかと心配になる。C沢のチョックストーン手前まで三人で行ってから、念のため後藤が空荷で少し登った。びちょびちょの岩登り。上部も雪渓がかなりあるがアプローチはできそうな感じだったので、下山することにした。

奥又池で食事。柳川さんはいつものウイスキー。村井さんは柳川さんの為に日本酒を持ってきていたのだがこれが仇となった。眼前に前穂、四峰正面の岩場、花、池、山に囲まれ静かな最高のロケーションの中の楽しい夕食。柳川さんはほろ酔いで気分がよさそう。嫌な予感がする…僕はずっと思っていた。

就寝。少しすると柳川さんの歯ぎしりが始まった。本当にすさまじい音である。かなり前屏風岩を登った後、横尾で幕営した時、柳川さん宅に泊まった時、以来である。もう近くで眠ることはできない。暖かい夜だったので僕は村井さんにシュラフを借りて外で眠ることにした。グッスリ。が…その後に雨が降る。心配した村井さんが起こしに来てくれた。テントに戻ると柳川さんの歯ぎしりが収まっていた。かなりホッとしました。

まあまあ寝れたのでよしとしよう。思い出だね…などと言いながら朝ごはん。暗闇のなか4:00出発。途中までは問題なし。今日はガレ場よりも雪渓をできるだけ歩くことにした。軽アイゼン初体験の柳川、後藤ペア。

チョックストーンを越えC沢を詰める。雪渓が多いので左岸右岸にシュルントに注意しつつ、ジグザグに詰める。

C沢B沢の間の尾根のインゼル部分を通過するのだが、今さら、、、「柳川さんインゼルって何?」と聞く後藤。尾根上の台地のように平坦になっていることらしい。イ

ンゼルに上がると下降路は思ったよりも急で、懸垂用のスリングも残置してあったので懸垂した。前穂の東面が見渡せる。やはり脆そうというのが第一印象。北壁、右岩稜、Dフェース。冬に来たい。

どこが取りつきかよくわからないままB沢を詰める。思っていたよりもずっと詰めなければならなかった。Dフェースとのドン付まで詰めるとトポ図と一応合致した。これでやっとアプローチが終わった。けっこう時間がかかった。屏風岩や、滝谷と比べれば小屋なども遠く、穂高の懐深く迄入り込んでいるような感覚。村井さんは全く遅れることなくついてきている。7:30頃登攀開始。三級程度のクライミングなので全く問題ないのだが、ボロボロすぎる。ガバガバのホールドがグラグラするのでどのホールドも信用はできない。唯一のハイライト松高カミンというところを通過。どこでも登れるのでルートが判然としないので適当にプロテクション乏しく登る。

途中右に登り過ぎてしまいルートミス。全く残置なくボロボロの岩場。上部にロープにぶら下がったザック。中を漁ってみるとジェットボイルや、テントが入っていた。計画書を見るとソロの方。推測だが荷上げの際引っかかってザックが動かなくなってしまい残置して帰ったのだと思う。数年のもので、こんなものが数年ぶら下がったままとは、ここはあまり人が来ないのだと感じた。誰かは分からなかったのだが、大阪の方らしいことはわかった。福島の方らしい。JR野田駅に帰ることが記されていた。

ルートリカバリーして柳川さんにバトンタッチ。もう頂上は近い。落石の音がデカく岩場に響いていた。頂上11:30頃。全くもってガスで何も見えないが。充実の山。柳川さん村井さんと来れたことがうれしい。このような三人のパーティーで来ることはもう二度無いかもしれない。景色なんて見えなくても満足だった。記念撮影。ここからの下山はひたすらひたすら。ふくらはぎが痛い。正月はあんなに歩いても平気だったのに、最近クライミングばかりで歩くのがキツイ。下山中も思ったのが、村井さんのタフさに驚いていた。ペースを全く乱さない。

上高地に着くとホッとして、わさび豚まんを食べた。山に来たのは鹿島槍に三月に行った以来。山の懐に入り込んでいる感覚はやはり何とも言えない。もちろん落石など危険は多いのだが感覚が研ぎ澄まされていく感じは安全を管理されたフリークライミングでは味わえないものがある。山が好きだ。

このような柳川さんとの山行を何度か繰り返してきたが、その感覚を村井さんにも味わってもらえたようだった。聞くよりもやはり体験してもらった方が分かりやすい。そして柳川さんとの久しぶりの山、楽しかった。なかなか良い山行だった。水曜まで体はガタついていたけれども…